



平成 30 年 1 月 9 日(火)
練馬区立開進第四小学校
校長 佐々木 秀之

開四小だより

1月号

いぬどし

校長 佐々木 秀之

あけまして おめでとうございます。

早いもので、「平成」となってから 30 年目を迎えました。今年の干支は「戌」で、小学校では平成 18 年（2006 年）に生まれた子供たちが年男、年女ということになります。干支の中で 11 番目にあたる戌は一年でいう 11 月にあたり「戌」と書き、本来の読みは「じゅつ」。「戌」という漢字は「一印」と「戈（ほこ）」という漢字から成り立ち、元は作物を刃物で刈り取りひとまとめに締めくくることがを表現しているそうです。昨年の「酉（とり）」が収穫できる状態だとすれば、「戌」は収穫後の段階と考えられます。

*

「戌」を動物にあてはめると「犬」になります。犬は人間と暮らし始めたもっとも古い動物であり、文化や表現の中に多く登場します。また、「人間の最良の友（Man's best friend）」といわれるように、飼い主やその家族に忠実なところはプラスのイメージがあります。ノンフィクションの物語でも、「忠犬ハチ公」や「南極物語」などのように、実在した犬にまつわるエピソードや芸術作品などが数多く存在しています。

「犬」にまつわることわざや慣用句を思い浮かべると、「犬も歩けば棒にあたる」「犬の遠吠え」「尾を振る犬は叩かれず」「飼い犬に手を噛まれる」「犬馬の労」「犬猿之仲」など、よい意味にも悪い意味にも使われてきています。私たちの生活の中に溶け込んできた「犬」であることは、ことわざや慣用句の数を見てもわかります。

「犬」に抱くイメージは様々あります。社会性があり忠実な動物である。人との付き合いも古く、親しみやすい動物。お産が軽いことから、安産については「戌の日」が吉日とされています。また、戌の干支の特徴として、勤勉で努力家であるといわれています。

*

「戌」は「酉」に燃え尽きた豊かさや灰の中から、新たに芽生えた新たな意味や価値がぐっと成長することを示しています。ただし、芽吹きが上手くいかなかったり、中途半端に過去に囚われたり拘ったりしていると、それが自分の足を引っ張ってしまうそうです。つまり、前向きな努力を重ねることができるかどうかで、大きく成長できるかどうかが変わります。

開四小に通う子どもたちが穏やかに、そして大きく成長できる一年であるよう、教職員全員の英知を結集して努めてまいります。本年もみなさまのご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。